

ハウスアスパラガスにおけるトンネル被覆による早期出荷技術

[要約] ハウスアスパラガスにおいて、3月中下旬から4月中旬まで農ポリで畝をトンネル被覆して地温を上げるで、平均単価の高い4月に収量と売上を増加させることが可能である。

農業総合センター山間地帯特産指導所	平成25年度	成果区分	技術情報
-------------------	--------	------	------

1. 背景・ねらい

本県のアスパラガス栽培では、通常4月下旬から春芽の収穫が始まり5月に春芽の収穫ピークを迎える。そのため、平均単価の最も高い4月に出荷量が少ないという問題がある。そこで、被覆資材等を用いて早期出荷技術を確立する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) ハウスアスパラガスにおいて、3月中下旬から4月中旬に畝を農ポリでトンネル被覆すること（以下トンネル区）で、無処理区（慣行）よりも平均地温（地下15cm）を約3～6℃高く保てる（図1、写真1）。
- 2) ハウスアスパラガス7～8年生株において平均単価が高い4月の収量は、トンネル区が無処理区（慣行）と比べて約2.8倍高く、売上試算も無処理区（慣行）と比べて約2.8倍多い（図2、3）。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) トンネル被覆による保温開始時期が早すぎると、春芽収穫後トンネルを除去した後、立茎時に凍害に遭う恐れがあるため注意する。
- 2) トンネル被覆期間中は、トンネル内気温が、日中25℃以上の高温にならないようにトンネル開閉を行う。トンネル開閉が不十分でトンネル内気温が上がり過ぎると、春芽の穂が高温障害を受けるので注意する。
- 3) 本成果はハウスアスパラガス7～8年生株を使用した2カ年の結果である。

4. 具体的データ

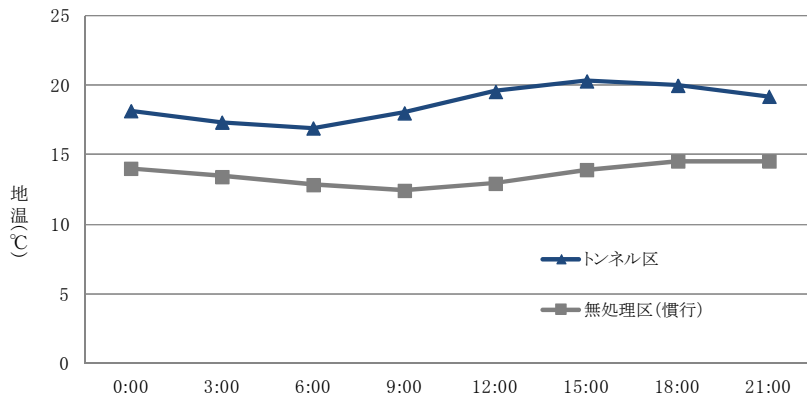


図1 トンネル被覆による保温を行ったハウスアスパラガスの平均地温の推移
(地温は地下15cmで測定。H24.3/23~4/17の各時間の平均値。)



写真1. トンネル被覆

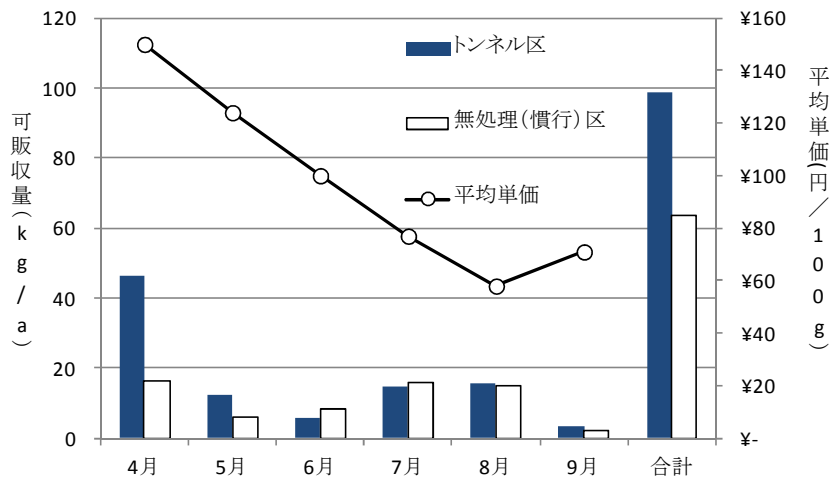


図2 3~4月にトンネル被覆したハウスアスパラガス7-8年生株の月別可販収量(H24-25の平均値)
(トンネル被覆期間: H24.3/19~4/27, H25.3/28~4/19
トンネル被覆方法: 長さ250cmのポールを高さ約50cmのアーチ状に設置し、厚さ0.05mm、幅1.8mの農ポリを用いて設置)

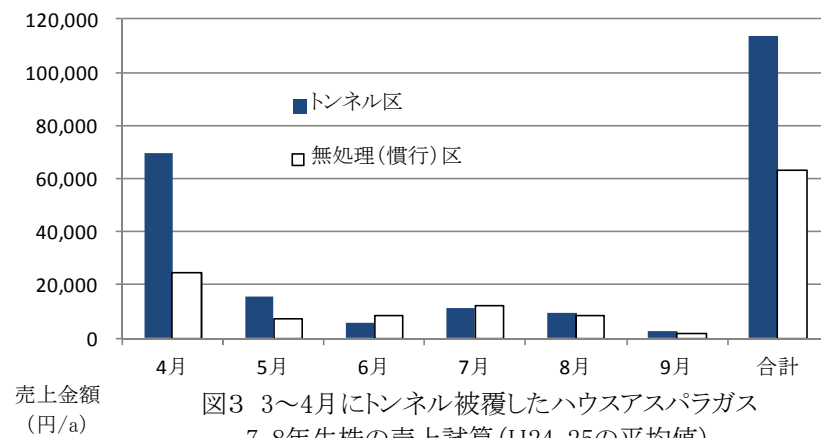


図3 3~4月にトンネル被覆したハウスアスパラガス7-8年生株の売上試算(H24-25の平均値)

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

養液土耕等を用いたアスパラガスの安定栽培技術の確立・平成 23~25 年度・山間地帯特産指導所